

♪「御喜美江アコーディオン・ワークス 2008 夢・思考・地平線」ぶらり訪問記・♪

9月28日(日)14:00開演

会場：浜離宮朝日ホール

(都営地下鉄大江戸線 築地市場駅A2出口すぐ)

出演者：御喜美江(アコーディオン)

ゲオルク・フリードリヒ・シェンク(ピアノ)

池上英樹(マリンバ、パーカッション)

入場料：全席指定4000円



(写真は3点ともチラシより転写)

■ステージは全て木製で囲まれ天井も高く落ちついた感じのホールです。最大で398席ある客席はほぼ満席状態ではじまりました。

～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

■第1部は御喜美江さんのアコーディオンソロ、明るく深みのあるワインレッドのドレスで、世界初演である現代作曲家の曲から、聴き覚えのあるシェルブールの雨傘、ピアソラのチャオ・パリなど約40分間、正確で緻密な音の連続でした。

■コンピューターで制御された機械仕掛けの人形が自由自在にアコーディオンを操っているような動きを見ていて、4年前に妻と旅先で見た(伊豆のオルゴール館で実演していた)「オーケストリオン・ダンスオルガン」を思い出していました。それは、人間の背丈よりも高く両手を広げたより横幅のあるひときわ大きな自動演奏装置(オルゴール)で、中央にドラムセットが置かれ右にサクソ、左にアコーディオン。中央扉の中には楽譜代わりに無数の穴の開いた用紙がシャバラ状に折りたたまれ収納されていて、その穴の開いた用紙によってすべての楽器が自動演奏するのです。アコーディオンも「ド」はドの鍵盤を、左手のベースも正しいベースボタンをちゃんと押していました。

■第2部は、初演となる委嘱新作「オニオン・バレエ組曲」(アコーディオンソロ)で始まる。作曲家「吉松隆氏」が猫を飼っていることからショートインタビューの中で、猫のしなやかな動きから曲が浮かぶことがありますかとの問いに、「鳥のアクションの中から得るものがある」と答

えていたのが印象に残りました。

■その後はピアノとマリンバを加えてのアンサンブル。「ピアニストのゲオルク・フリードリヒ・シェンク氏は私の夫です」と御喜美江さんから紹介がありました。ピアノ、バイオリン、チェロ、ギターといろいろな楽器との組み合わせが考えられると思います

が、マリンバとのアンサンブルは初めて聴きました。マリンバの音色が新鮮だっただけに、



ともするとアコーディオンが負けてしまうのではと思いましたが、とんでもない、とてもエネルギッシュで、これでもかこれでもかとのびのびと弾いていてすばらしい演奏でした。

■超絶技巧という言葉がありますが、ミツバチが羽を震わせるような右手のしなやかなすばやい動き、私にはあのような真似はできないけれど、



拍手が鳴り止みませんでした。

想いが両手にしっかり伝われば聴いている人の心を動かす音が出ることを実証してくれた演奏でした。演奏が終わりアンコールに応えた後もいつまでもいつまでも

(文：乙津)

